

## 文 献

- 1) 牧野富太郎. 日本植物図鑑 (増補版). 478 (1956)——2) 柴田桂太. 資源植物事典 (増補改訂版). 735 (1957)——3) Bean, W. J. Trees and Shrubs hardy in the British Isles. 7 ed. 1: 634 (1950)——4) Maximowicz, C. J. Diagnoses breves plantarum novarum Japoniae et Mandshuriae. Bull. Acad. Imp. Sci. St.-Pét. **10**: 485-486 (1866)——5) Baillon, H. The Natural History of Plants. **3**: 393 & 459 (1874)——6) Niedenzu, F. Hamamelidaceae. Engl. u. Pr. Die natürlichen Pflanzenfamilien. III-2a. 115-130 (1891)——7) Harms, H. Hamamelidaceae. Engl. Die natürlichen Pflanzenfamilien. 2 Aufl. 18a. 303-345 (1930)——8) Melchior, H. Syllabus der Pflanzenfamilien. 12 Aufl. **2**: 196-198 (1964)——9) Hutchinson, J. The Genera of Flowering Plants. **2**: 93-103 (1967)——10) 前川文夫. マルバノキ属の分化と分布を古赤道から見る. Journ. Jap. Bot. **43**: 39-43 (1968).

### ○高等植物分布資料 (61) Materials for the distribution of vascular plants in Japan (61)

○ヒゲナガコメススキ ヒゲナガコメススキは蒙古, アルタイ, 東シベリア, 中国北部に分布し, 北朝鮮の高山 (白頭山, 冠帽峯, 遮日峯) に生ずる高山寒冷地性のイネ科植物であるが, 筆者はこれを昨年 8 月, 北アルプス白馬鑓岳に見出した。更に本年 8 月高橋秀男氏と共に, 南アルプス北岳でもこれを採ることができた。本種は一見コメススキに似るが, 長さ 20 mm を超える羽毛状の芒がある著しいもので, これが採集家の目を逃れていたのは不思議とする他はない。

北岳におけるヒゲナガコメススキの生育地は, 筆者がオヤマノエンドウ・ヒゲハリスゲ群集と名付けた高山風衝地の乾燥草原中で, ヒゲハリスゲ, オノエスゲ, チョウノスケソウなどと共に, 海拔 2950~2970m 附近に見られる。白馬鑓岳では海拔 2800m 附近で, チョウノスケソウの小群中にわずかに見出されたにすぎないが, この群落もオヤマノエンドウ・ヒゲハリスゲ群集に含め得るものであった。

耿以礼編の中国主要植物図説禾本科には良い図がある。本種の葯には先端に短毛のあるものと無毛の型とがあるらしいが, 日本のものは何れも有毛であった。本種は *Stipa mongolica* Turcz. ex Trin. として記載され *Ptilagrostis* 属を建てたり大井次三郎博士のように *Achnatherum* に所属せしめたりされているが, ここでは一応 *Ptilagrostis mongolica* (Turcz.) Griseb. を採っておきたい。(神奈川県立博物館 大場達之)